Q 5 今回のハザードマップは前回と主にどこが違うのですか。

A 5 今回の改定のポイントは、「自らの命は自らが守る」を基本として、主に3点あります。

平成27年の水防法改正による拡充

水防法の改正により、洪水浸水想定的前提となる降雨が、過去の大雨の実績などを基に定めた「計画規模降雨」から、概ね1,000年に1度以上の確率で発生する「想定し得る最大規模の降雨」へと拡充されました。

新しいマップには、計画規模降雨を「基本想定」、想定し得る最大規模の降雨を「最大想定」として表記しています。

計画規模、想定し得る最大規模の降雨の意味については、Q10「基本想定とは何ですか。」、Q11「最大想定とは何ですか。」で確認できます。

洪水浸水想定の対象となる河川の拡充

洪水浸水想定区域の指定が義務付けられている九頭竜川や日野川など、流域面積の大きい7つの大河川のほか、本市を流れる35の中小河川についても、洪水浸水想定区域が指定されました。

新しいマップでは、これまで浸水想定区域の指定がなされていなかった地域についても浸水想定がなされています。

「自らの命を自らが守る」ための情報面の拡充

災害時に取るべき避難行動を簡単に確認できる欄を新たに追加しています（表面「7 マップを見て調べよう！」）。

また、上記欄で災害時にとるべき自らの行動を確認した上で、「いつ」「何をするのか」といった具体的な避難計画を立てるための「マイ・タイムライン」の作成欄を追加しています。マップに記載された情報を読むだけでなく、マイ・タイムラインの作成や必要な物資の備蓄など、日頃から水災害について考え、備えておきましょう。